

式 辞

1, 2月は近年にない雪と寒さに見舞われ、春を待ち焦がれる気持ちがいつもより強く感じられるこの頃です。

本日、長野県蓼科高等学校令和3年度卒業式を挙げるにあたり、日頃本校の教育振興に格段のご高配をいただいております皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、この卒業式は昨年と同様、丸2年続く新型コロナウイルス感染症対策ということで、今回も来賓の皆様と在校生諸君がいない、異例の開催となりました。しかし、両角立科町町長様をはじめとしまして、大勢の来賓の皆様方より、祝意の声を頂戴しておりますことを、ご報告申し上げます。大変ありがとうございました。

また、保護者の皆様方には、教職員を代表してお祝い申し上げます。お子様方は、今ここに力強く新しい社会へと踏み出される日を迎えられました。日頃のご苦勞とご訓育が今ここに実り、この日を迎えられましたことに、心からお祝いの気持ちを表します。誠におめでとうございます。

そして、ただいま卒業証書を手に入れました76名の卒業生の皆さん、晴れのご卒業おめでとうございます。皆さんは、学校創立121年目の卒業生としてここに足跡を刻むことになりました。3年前に皆さんが、緊張した表情で入学式にこの体育館に入場してきた姿を昨日のように思い出します。まだ幼さが残っていたその顔も、3年後の今、目には意思の光が宿り、見違えるほど立派になりました。皆さんは1年次に台風19号豪雨災害、そして2, 3年次には新型コロナウイルス感染症の猛威の中、とても苦勞をしながらここまで歩んでこられました。最上級生になったこの1年でも、ポプラ祭と120周年記念行事の中止という大ピンチがありました。しかし皆さんは諦めずピンチをチャンスと捉え、全校ダンスと代替ポプラ祭を見事に成し遂げ全校を一つにまとめ上げました。加えて、5月30日には120周年記念行事の一環で、タイムカプセル掘り起こし企画を行い、21年前の生徒会役員の皆さんと交流するという、例年以上の企画を成功させました。皆さんは沢山の思い出とレガシーを、後輩と蓼科高校の教職員に残してくれました。ありがとうございます。

卒業式に際し、心にとどめていただきたい言葉を一つお贈りします。

それは「結果だけでなく、伝わるものがあるんだな」という言葉です。

ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。これは、先月の2月に北京冬季オリンピックのノルディック複合の団体及び個人で、それぞれ3位の銅メダルを獲得した渡部暁斗選手の言葉です。個人で彼は1, 2位選手との激闘を繰り広げ、1位との差を4秒から0.6秒まで縮めてゴールしました。欧米人に比べ足のストロークが短く、不利な体格の日本人がここまで食い下がったことは、大きな感動を呼びました。金メダルと同等だ、いやそれ以上の感動だと。その反響を知った渡部選手が残した言葉でした。

これは、これから歩む皆さんの人生と同じです。最初から輝かしい賞を受けたり華々しい活躍をする選手なんて、ほとんどいません。大切なのは地道な努力の積み重ねとあきらめない気持ちです。例えば皆さんが社会人になり就職した職場でいくら仕事をして、最初は成果が表れないことがあるかもしれません。実際おそらく大部分の人がそうでしょう。しかし、最善を尽くし努力したかそうでなかったかで、皆さん自身の心持ちと周囲の評価は全く違ってきます。最善を尽くせば、あなた自身に打開策が見つかるものですし、周囲が応援してくれます。仕事も以前よりやり易くなり、皆さんは人間的に成長し、よい結果は気にしないでも後からついてくることでしょう。「人生、努力の結果よりも努力で伝わるものこそが大切」と言い直してもよいと思います。

最期に、幸せは努力し続ける皆さんを絶対に見放したりしません。不幸だと嘆く時、それは、皆さん自身が自分の幸せを見放そうとしている時なのです。だからどんなに苦しくても、どんなにつらくても、決して自分からは、夢や希望や可能性を、そして自分自身を見放さないで生きて行ってほしいと願っています。

卒業生の皆さんの輝ける未来、本日ご出席の皆さんのご多幸を祈念して、卒業式の式辞といたします。

令和3年3月2日 長野県蓼科高等学校長 宮澤和人